

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	O170201446		
法人名	有限会社 コンフォール		
事業所名	グループホーム こんふおーる		
所在地	札幌市北区新川西3条3丁目12-15 (電話) 011-765-3147		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年7月30日	評価確定日	平成19年8月17日

【情報提供票より (平成19年6月1日事業所記入)】

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年8月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤 人,	常勤換算6.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1~2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	68000(11~3月) 60000(4~10月) 円
敷金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	0	要介護2	3
要介護3	4	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 82歳	最低 71歳	最高 93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌病院、新川病院、長内歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービスを併設する当ホームは、平成15年札幌市郊外に開設された1ユニットの小規模グループホームであるが、介護事業に思い入れのある運営者が同じ志の管理者とともに、利用者の意向やその人らしい生き方を大事にしながらケアサービスに努める姿勢に好感が持てる施設である。開設当初は連携が十分でなかった地域との関わりも、昨年からの地域代表者を含む運営推進会議開催をきっかけに、ホームに対する地域の理解が深まり、双方の各種行事に交流が予定されているなど、利用者が地域に馴染みながら暮らす環境が進行中である。また、管理者は、職員、利用者との信頼関係を築きあげており、家族にとっても安心して利用者を預けられる家庭的雰囲気のホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の評価で指摘された要改善項目に対して、権利と義務を契約書へ記載、運営推進会議を通しての地域との連携強化、用品管理の徹底など早急に取り組んでおり、改善への積極的姿勢が伺える。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	当ホームの自己評価は全職員が参加し、運営者がまとめているが、改善を要する事項についてはミーティングや全体会議で話し合いを行ない、具体的改善案とその進め方を検討するなど積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は包括支援センター職員や、地域代表等をメンバーとして昨年からの2ヵ月毎に7回開催されている。会議においてはホームの概要や運営状況の報告のほかに認知症問題、防災対策、地域やホームからの要望など幅広い分野にわたって積極的な意見交換がなされている。さらに、この会議開催をきっかけに、従来は疎遠であった地域との関わりが改善の方向にある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族のホーム来訪は比較的多く、その際に利用者の暮らしぶりを伝え、家族からは意見や要望を聞いている。一部に訪問の少ない家族もあり、そこへは定期的連絡(ホーム便り等)以外に個別の「お便り」を付けて利用者の情報を提供し、家族からの要望等をケアサービスに反映させるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	従来は、町内会側の意向もあり、町内会へも未加入で地域との連携も十分ではなかった。しかし、昨年からの開催した運営推進会議へ町内会長が参加し、ホームの情報提供などにより、ホームに対する理解が深まってきている。そして、今夏には町内会行事やホーム行事へ相互に参加する予定があるなど、地域との交流が進行中であり、今後の連携強化が期待される。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームの運営理念は、「ゆったり・季節感・意思尊重」を基本とし、利用者のその人らしい暮らしに重点に置いた内容であるが、地域との関わりは表現されていない。	○	日常的ケアサービスにおいて、地域との関係も重視しているが、運営理念にそれが表現されれば、地域からの理解もなお一層深まるものと期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者及び職員は理念の重要性を理解し、共有しており、ミーティング等において理念にもとづくケアサービスのあり方を話し合うなど日常業務に活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	従来は、先方の都合で町内会へ未加入など地域との連携は十分でなかった。しかし、昨年の運営推進会議開催後、地域の理解も深まりつつあり、これからの町内会のお祭りやホームの行事に、お互いに参加しあうことが決まるなど、地域との交流が進行中である。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義は、ミーティング等を通して職員全員が理解しており、問題のある事項に関しては、随時、全職員の検討のもと改善に取り組んでいる。	○	評価に対する改善意欲は高く、早急な解決に積極的に取り組んでいるが、さらに、改善計画シートを作成、活用することによって、具体的な目標と実施時期、その成果が明確になると期待される。

札幌市 グループホームこんふおーる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年7月から2ヵ月毎に包括支援センター、町内会長を含むメンバーで開催され、ホーム運営状況の説明のほか、認知症問題や防災対策、地域の要望や意見の把握など検討され、地域のホームに対する認識度も高まっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは電話により不明な点についての相談をしたり指導を受けているが、職員が直接、担当部署を訪れるなどの接触は少ない。	○	行政との接触を積極的に行ない、介護関連情報の収集や行政職員のホーム来訪を要請するなど行政との積極的連携体制の構築が望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	頻繁にホームを訪れる家族も多く、その都度利用者の日常生活ぶりや病気の状況等を伝え、家族からの意見や要望も聞いている。訪問回数が少ない家族には電話のほか、毎月の「ホーム便り」とともに個別お便りを同封して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時に、職員との話し合いの中から家族が何を要望しているかを把握し、利用者のケアサービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームでは、近年、職員の移動も少なく、馴染みの職員が定着している。さらに、ヘルパー研修生などの実習も積極的に受け入れているため、職員の移動に対しても混乱など大きな影響はない状態にある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングや全体会議で内部研修の場を設けるなど職員のスキルアップに努めているが、職員ローテーションの関係や職員のレベルに合わせた研修の選定などから外部研修への参加が少ない。	○	会議やOJTによって内部研修は十分に実施されているが、外部研修へも費用負担を検討しながらできるだけ参加機会を増えることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が管理者会議等で交流のあるグループホームと相互見学や情報交換を実施している。さらに、今後は交流のあるホームと合同で行事を行なうことも予定している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者の入居前に管理者が自宅訪問し、家族や本人と話し合いを持ちながら、入居者の生活歴等を把握している。また、職員に馴染めるよう事前にホームの見学を要請し、家族が安心して預けられるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が人生の先輩であることを認識し、一方的な介護者の立場に立たず、両者がともに支えながら生活するとの意識のもとに、利用者のケアサービスに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との会話を重視し、会話の内容や日常行動から一人ひとりの思いを把握している。利用者の希望や意向が困難な場合には、多種の対応策を検討しながら本人本位の生活支援に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族、医療機関等と話し合い、協議しながら作成している。以前はケアプランについての知識が不十分な職員もいたが、ミーティング等内部研修を通じて改善傾向にある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に介護計画は3ヵ月毎に定期見直しを行なっている。利用者の身体状況変化に応じて本人の要望把握やミーティングを通して家族とも相談しながら随時見直しを行なっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームの運営法人は、隣接地にデイサービスを運営しているため、両者合同のイベントを実施したり、医療機関への送迎、来訪相談者への対応など柔軟な支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現時点では、利用者全てが24時間対応の協力医療機関を利用しており、毎月1回のホームへの定期往診も実施されている。また、利用者の病状に応じてほかの医療機関を紹介してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化については、協力医療機関との連携で、医療処置の状況を判断しながら退院又は退去の判断を行なっているが、重度化に対応した指針等はまだ作成されていない。	○	利用者の重度化や終末期の問題は、今後多くなることが予想されるため、指針の作成と医療機関との協力体制による具体的取り組みの対策検討が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー保護の必要性はミーティング等を通して全職員の共有認識となっており、個人情報の取り扱いに注意しているが、面会簿が一覧表で誰でも閲覧できる状態になっている。	○	個別の面会者カード利用などにより、別途に面会簿を作成するなど、外来者がホーム訪問者を閲覧できないような配慮を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は申し送りやミーティングを通して利用者の意向やペースを尊重しながら日々の過ごし方を検討している。		

札幌市 グループホームこんふおーる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、職員と一緒に食事準備や後片付けを行ない、食事中も職員は同一食卓で同じ食事を利用者とともに楽しみながら支援を行っている。夕食のメニューについてはできるだけ利用者の希望に沿えるよう配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、毎日の午前を設定しており、週2～3回の入浴を基本としている。入浴を望まない利用者には、職員が話し合いを持ちながら入浴をすすんで行なうよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内では、利用者の身体状況や趣味などを考慮しながら、食事関連や掃除などの作業、畑や花壇の手入れ、カラオケやゲーム類の実施など日常的に進めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、近くの公園への散歩やショッピングなど日常的な外出のほかに、花見や花火見学、市外へのドライブ（ピクニック）、外出などできるだけ外出の機会を多く持つように努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は夜間以外は施錠をしていない。日中は利用者が一人で出掛けることのないようセンサーが設置され、職員にわかるようになっている。		

札幌市 グループホームこんふおーる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは消防署の協力により年1回の避難訓練を実施し、避難場所も明確になっているほか、近隣への協力要請も行なっている。さらに、非常食や防災グッズも準備されている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分や食事の摂取量を記録し、食事カロリーも協力医療機関の栄養士の指導を受けながら栄養的にバランス食事メニューを心掛けている。	○	バランスの取れた食事メニューになっているが、摂取カロリーが明確でないため、定期的に栄養士によるカロリー計算の算出が望まれる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの居間・食堂は明るく開放的で、壁面には写真や季節ごとの飾りがあり温かみのある家庭的雰囲気に満ちている。	○	1階に比べて2階は、廊下や休憩スペースに飾りがなくやや殺風景な雰囲気があるため、絵画、タペストリー、装飾などにより雰囲気のある空間への転換を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は照明器具、暖房設備、カーテン以外は利用者の使い慣れた家具、調度品の持込みが自由であり、家族の写真や好みの飾り付けなどで居心地良い空間となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。